



富士山静岡空港
2009年6月4日 開港

平成21年6月10日(水)～7月9日(木)

祝！富士山静岡空港開港 きりえで見る磐田の自然風景 ～後藤修司作品展～

会 場／第2展示室

入館料／一般300円(20人以上は250円) 中学生以下150円

休館日／月曜日

趣 旨／

静岡県磐田市の自然風景をきりえで表現した後藤修司氏(1933年～2008年)の作品を展示いたします。

平成21年6月4日、富士山静岡空港が開港。7月より小松空港への乗り入れも開始されます。空港の開港により、石川県と静岡県の心理的距離も、ぐんと近くなりました。後藤氏のきりえの他、静岡県の観光展示を通して静岡をより身近に感じていただければと思います。



後藤修司氏

●後藤修司略歴

- ・1933年／静岡県磐田市西貝塚に生まれる。
- ・1952年／静岡県立磐田南高等学校卒業。
- ・1956年／静岡大学教育学部卒業。
- ・1956年／静岡県清水市小島中学校教諭として勤務。
(興津小・興津中・蒲原中・雄踏中・旭が丘中・気田中・豊田中・福田中・春野南中)
- ・1994年／静岡県磐田市立東部小学校校長を最後に退職。
- ・1994年／中遠建築高等職業訓練校校長として再就職。
- ・1997年／西貝公民館館長を6年間務める。
- ・2008年／8月1日急逝。瑞宝双光章～正六位受章

※38年間、主に理科および美術科の教諭・校長として静岡県下の小中学校で児童・生徒の指導や学校経営に務めた。学生、教員生活を通じて故郷・静岡の自然をテーマに、透明感と力強さを特徴とする水彩画、きりえ、彫塑作品を数多く制作。退職後も地元西貝公民館館長、磐田市美術協会会員・事務局長などの傍ら制作活動を続け多数の芸術賞を受賞した。



©2008 Syuuji GOTO

●作品目録

- ・府八幡宮／磐田市中泉
- ・医王寺 参道／磐田市鎌田
- ・見付宿(東坂愛宕山から臨む)／磐田市見付
- ・安久路川／磐田市西貝塚
- ・医王寺 中門／磐田市鎌田
- ・ひょうたん池／磐田市西貝塚
- ・法多山／袋井市
- ・福王寺／磐田市城之崎
- ・桶ヶ谷沼／磐田市岩井
- ・浜名大橋／浜名湖弁天島
- ・舟溜まり1／浜名郡雄踏町
- ・舟溜まり2／浜名郡雄踏町
- ・舟溜まり3／浜名郡雄踏町

企画展の開催にあたって

清々しい若葉の季節は、金子さん、中原さんお二人の作品を飾り、鑑賞するのに誠に適していると言えます。お二人が描く画題は異なりますが、ともに四季の風物や草花などを表現した爽やかな作品を数多く制作していて、今回の遺作展でも展示されているからです。

お二人の門前との関わりとしては、金子さんは32年ほど前に、私がきりえの仲間を誘って能登ツアーをしたとき参加したのが初めて、その後も数回訪れています。お酒が好きな金子さんは、「能登のお酒は飲みやすく、スイスイいくらでも飲めるわね」と、うれしそうに杯を重ねていたのを思い出します。そして、「中島に親戚がいるのよ」と言って、いつもみんなと別れて中島町へ行っていたのを思い出します。

中原さんは20年ほど前、もんぜん文化村の施設にばくの会が関わったとき、会員の一人として参加したのが初めて、その後も数回娘さんたち同行で仲睦まじく参加していたのを思い出します。

お二人との長い交わりの中で、私にとって中原さんは人生の先輩であつて、母のような存在でもあり、金子さんはきりえの先輩であつて、姉のような存在でもあり、お二人に出会えたことは誠に幸せだったとの思いを深くしています。

中原さんがきりえを始めたきっかけとして、金子さんが講師をしていたサークルに入会したといういきさつがあり、そして奇しくも同じ年に前後してあの世へ旅立たれたというのも、何かの因縁めいたものを感じさせられます。

「またそのうち、是非能登へ行きたいね」と、能登の話題が出る度にお二人は口を揃えて言っていました。その望みは叶わなくなりましたが、その代わり遺作展という形で作品たちが能登の地を訪れることが出来て、お二人の望みが叶ったのではないかと思います。

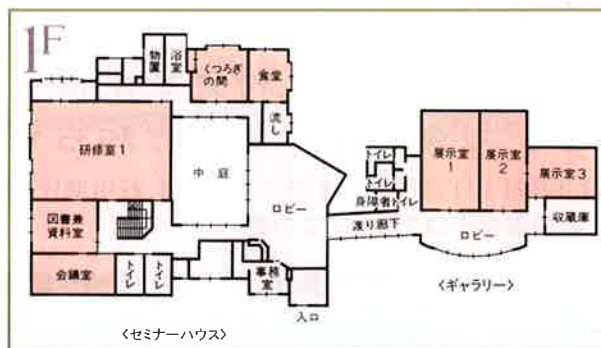
木本 有太可(門前町出身:ばくの会会長)

— 利用案内 & 交通案内 —

開館時間／午前9時～午後4時

入 館 料／一般300円(20人以上は250円) 中学生以下150円

休 館 日／月曜日・祝祭日の翌日・年末年始



奥能登からきりえ文化を、

きりえの素晴らしさを、すべての人に…

輪島市もんぜん文化村

平成21年度

春の企画展案内



輪島市もんぜん文化村

石川県輪島市門前町腰細9-29

TEL(0768)45-1916

FAX(0768)45-1963

■後援: 静岡県・磐田市・北陸中日新聞社